

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年8月28日

予報期間：8月30日～9月29日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、北・東・西日本では、期間のはじめは降水量の少ない状態が続く所があるでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本、東日本、西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報

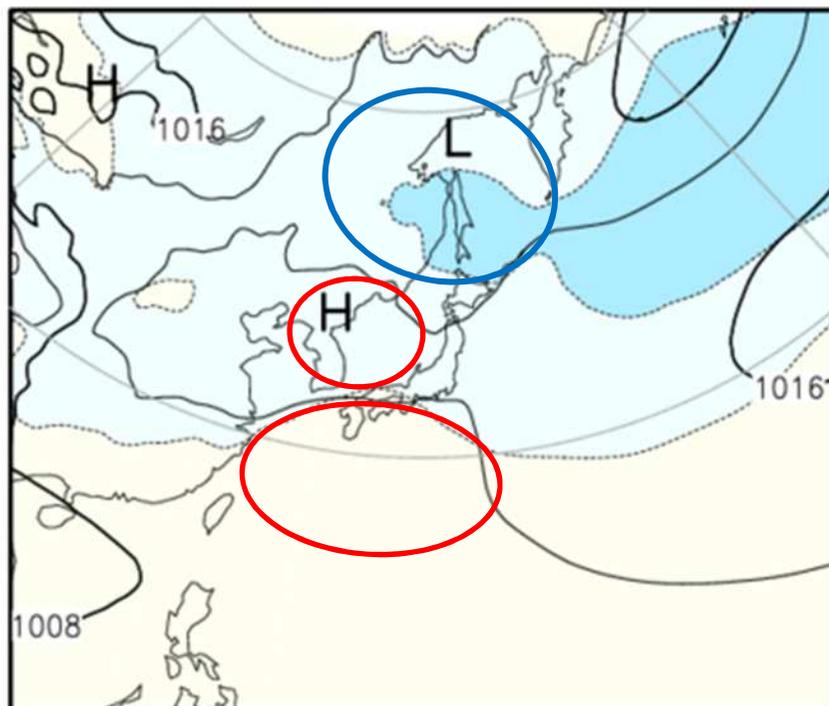
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:10:80	20:40:40	20:40:40	
	太平洋側		40:30:30	20:40:40	
東日本	日本海側	10:10:80	40:30:30	20:30:50	
	太平洋側		40:40:20	20:30:50	
西日本	日本海側	10:10:80	40:30:30	20:40:40	
	太平洋側		40:30:30	20:40:40	
沖縄・奄美		10:10:80	30:40:30	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:40:50
西日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:20:70

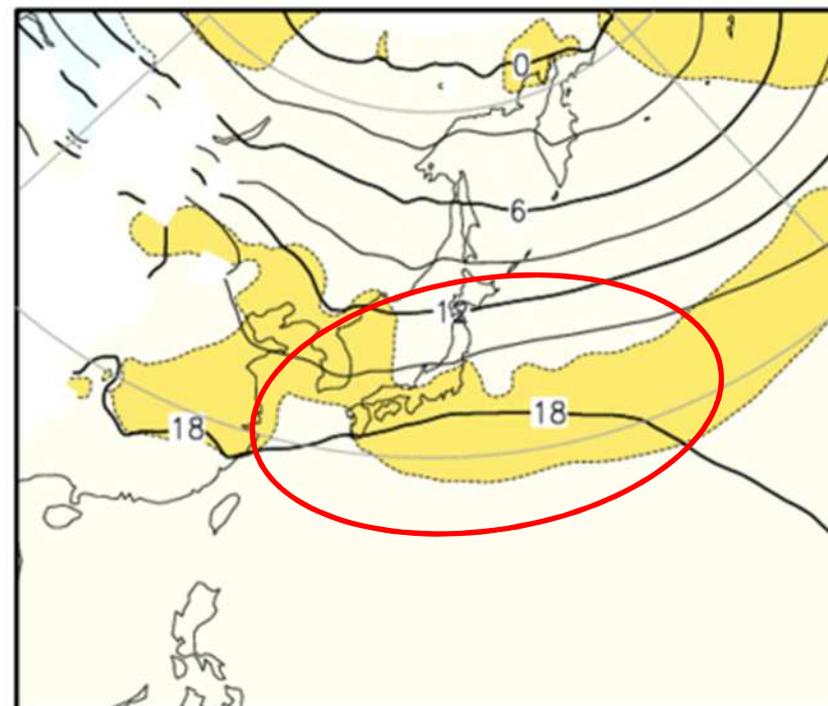
全般予報のポイント

- ・北・東・西日本では、6月中旬以降、暖かい空気に覆われ、気温のかなり高い状態が続いています。向こう1か月の気温も、全国的に暖かい空気に覆われやすいため、高い状態が続くでしょう。全国的に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・北・東・西日本では、6月下旬以降、高気圧に覆われ、降水量の少ない状態が続いている所があります。向こう1か月の降水量も、高気圧に覆われやすいため、東日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、東日本では多く、北・西日本では平年並か多いでしょう。
- ・北日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受ける時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

海面気圧(1か月)



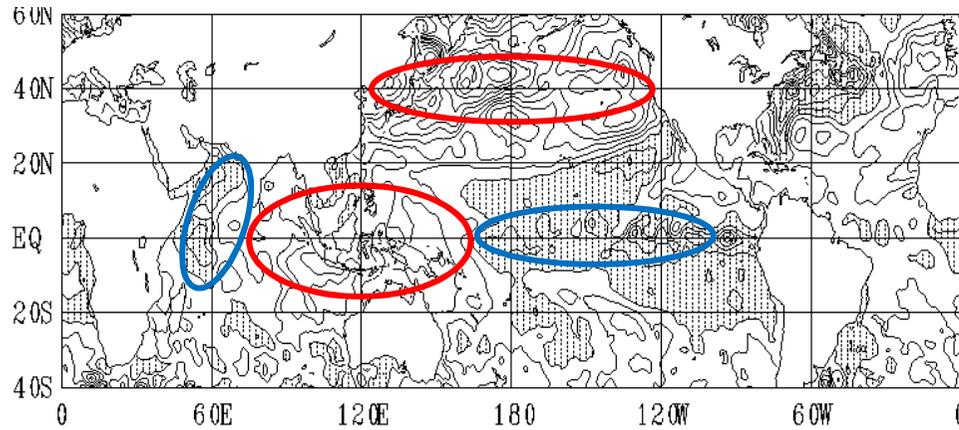
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、平年に見られる本州の南の気圧の谷が浅く、東・西日本を中心に高気圧に覆われやすいでしょう。一方、北日本付近は気圧の谷となり、北日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある見込みです。

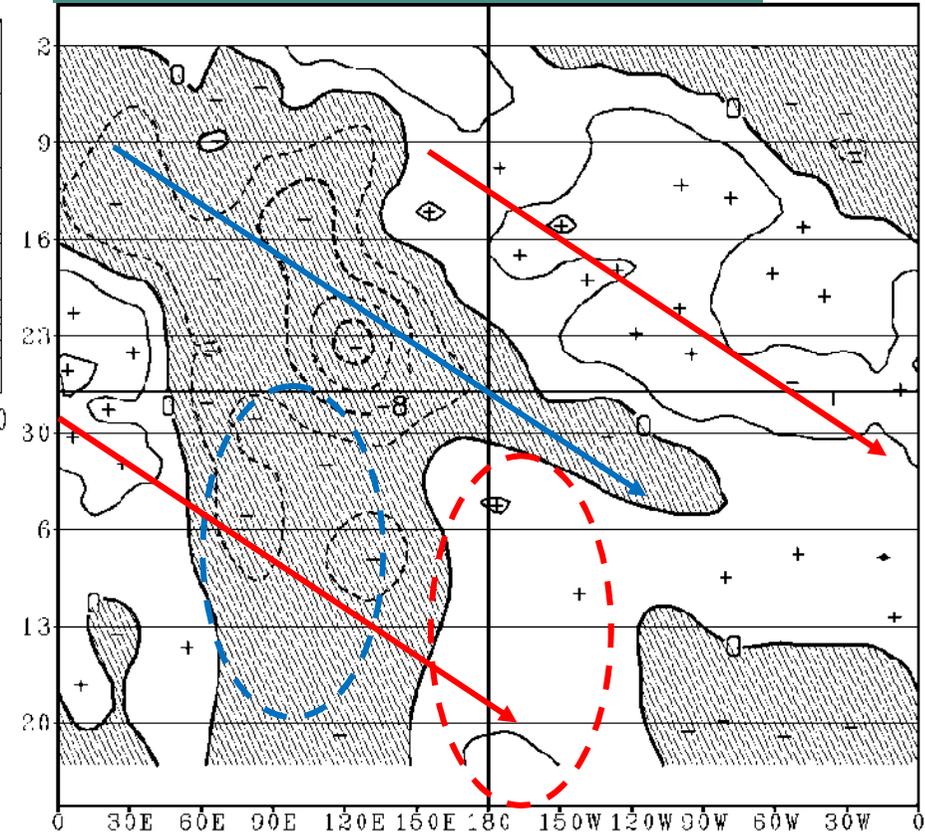
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高いと予測されています。

SST偏差



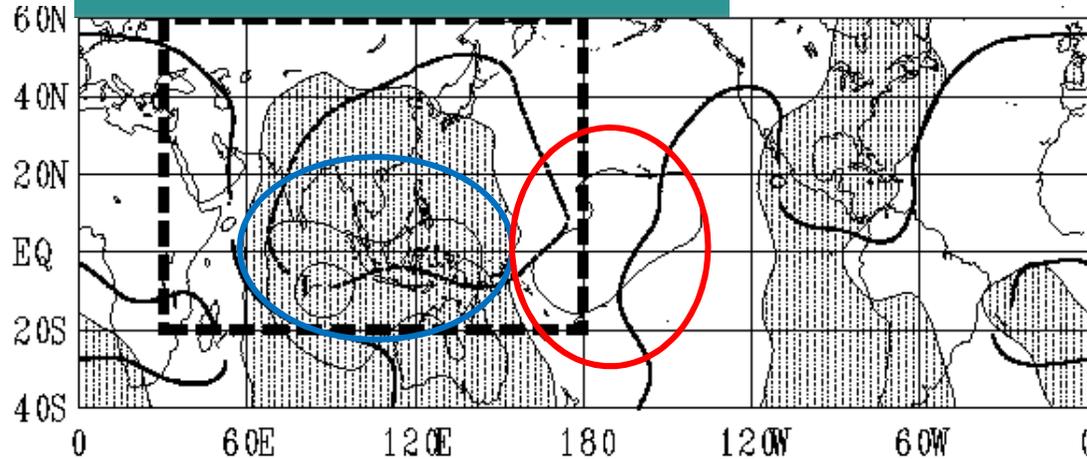
熱帯域では、インド洋東部から太平洋西部で正偏差。一方、インド洋西部と、太平洋赤道域の中部を中心に負偏差。ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、日本海から北太平洋中緯度帯で広く強い正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



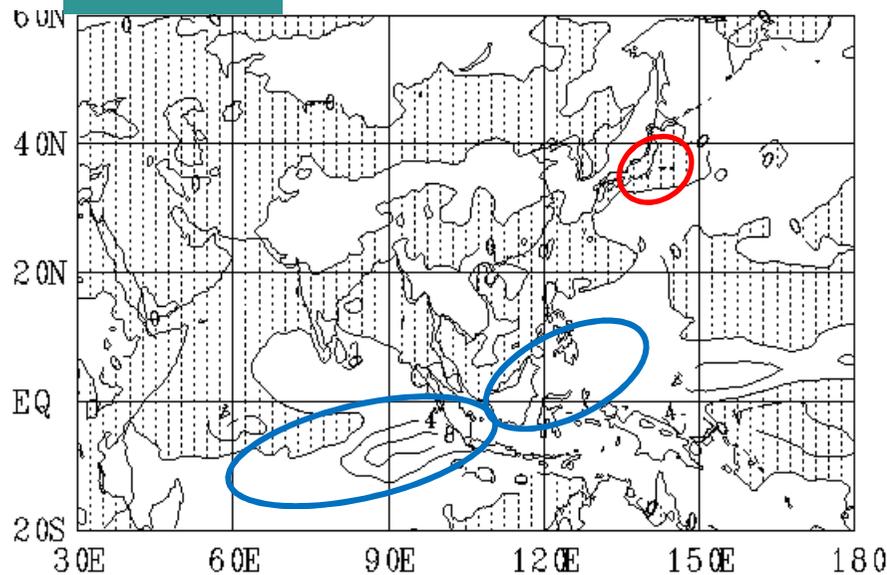
対流活発域は強弱があるがインドネシアから中部太平洋に東進。その後、不活発域が東進するものの、インド洋からインドネシア付近で対流活発域が継続。

200hPa速度ポテンシャル



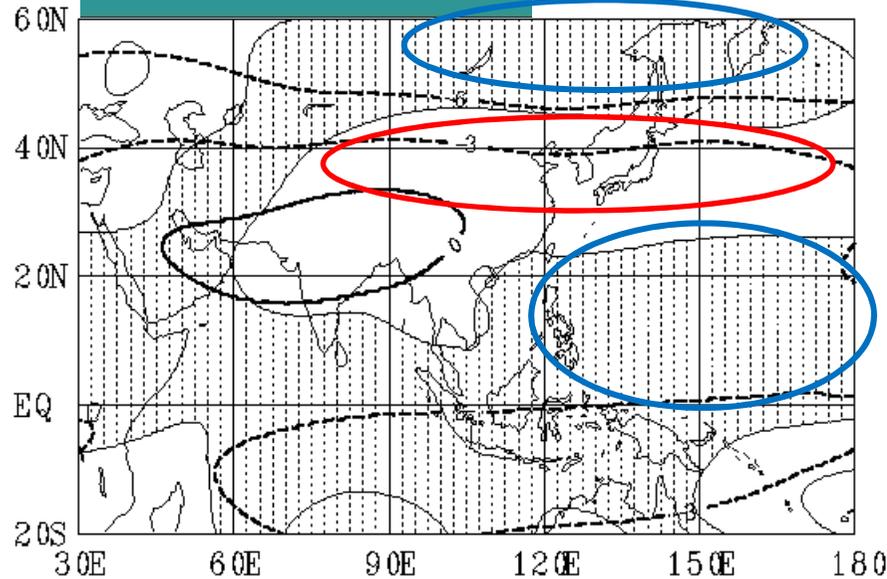
海面水温偏差の分布に対応して、インド洋東部からインドネシア付近で上層発散偏差。一方、太平洋熱帯域の中部で上層収束偏差。

降水量



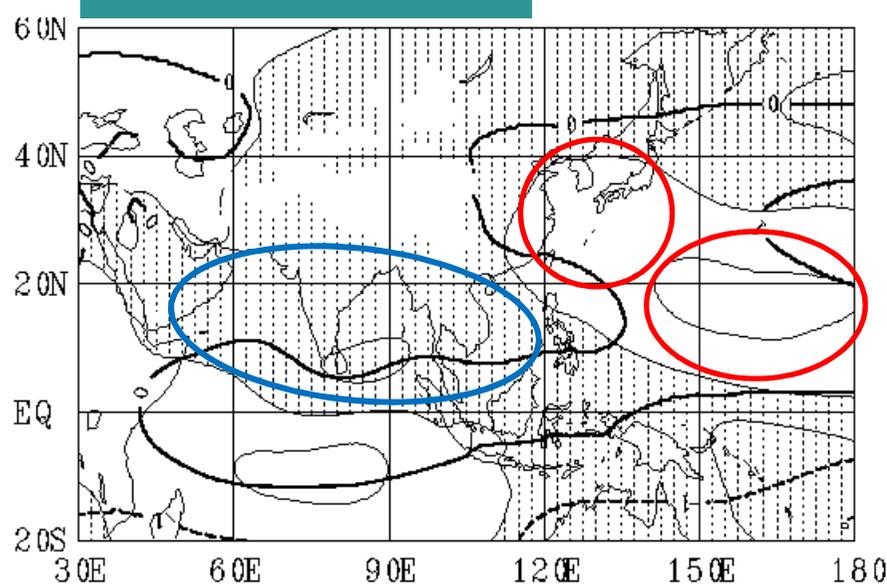
インド洋熱帯域の南東部と、インドネシアからフィリピンの東にかけて多雨偏差。
日本付近では太平洋側を中心に少雨偏差。

200hPa流線関数



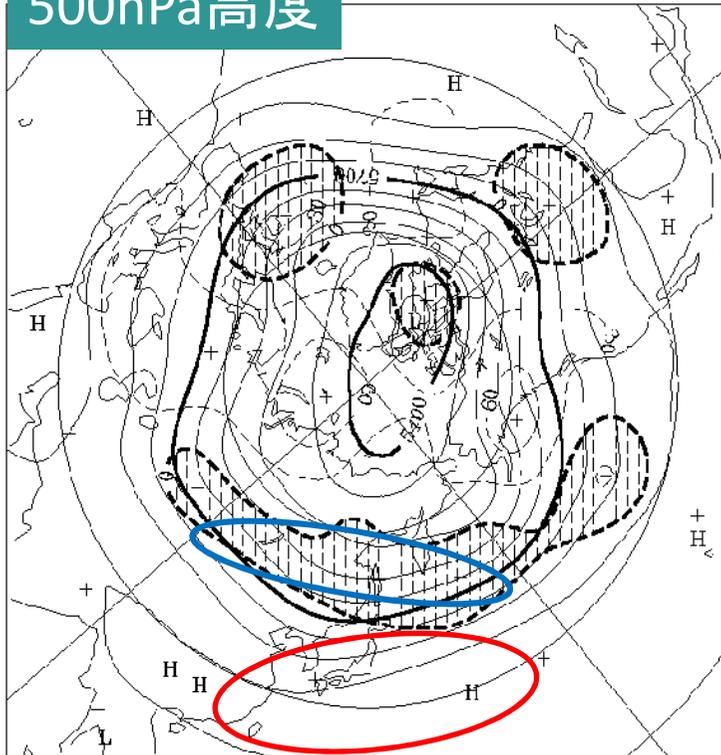
亜熱帯ジェット気流が北偏して強いことに対応して、チベット付近から日本の東にかけて帯状に高気圧性循環偏差、その北で帯状に低気圧性循環偏差。対流活動に対応して、フィリピンから日付変更線付近にかけて低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



対流活動に対応して、インド洋からインドネシア付近にかけて低気圧性循環偏差、フィリピンから日付変更線付近にかけて高気圧性循環偏差。沖縄・奄美から東日本付近にかけて高気圧性循環偏差で、太平洋高気圧が東・西日本付近に張り出す。

500hPa高度

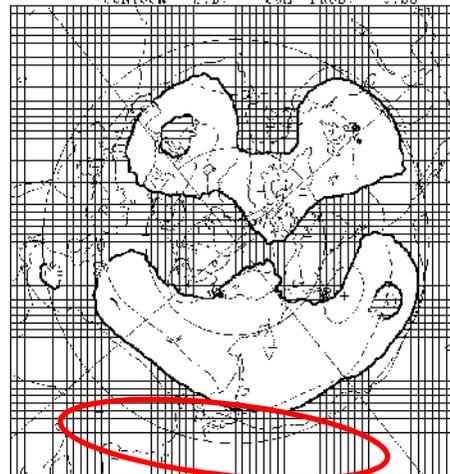
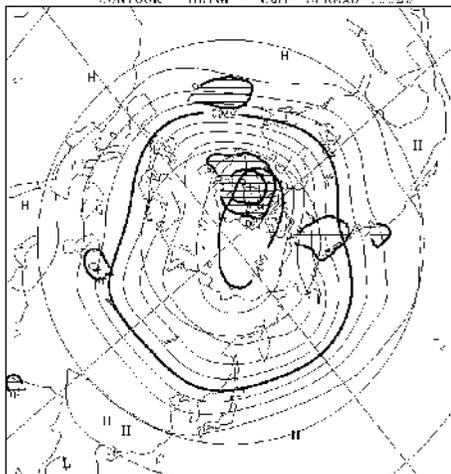


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROF. OF H. ANOMALY AND S.D.

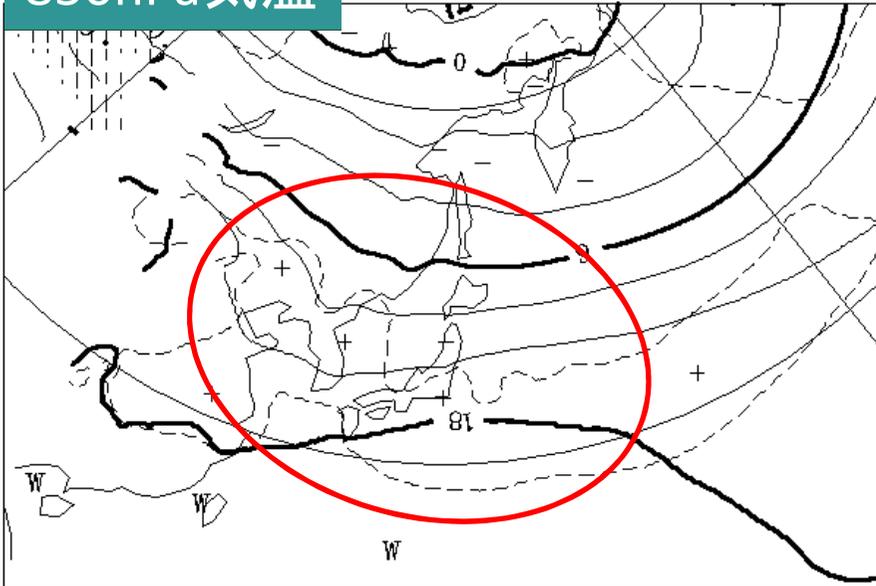
CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 30m PROB: 0.25



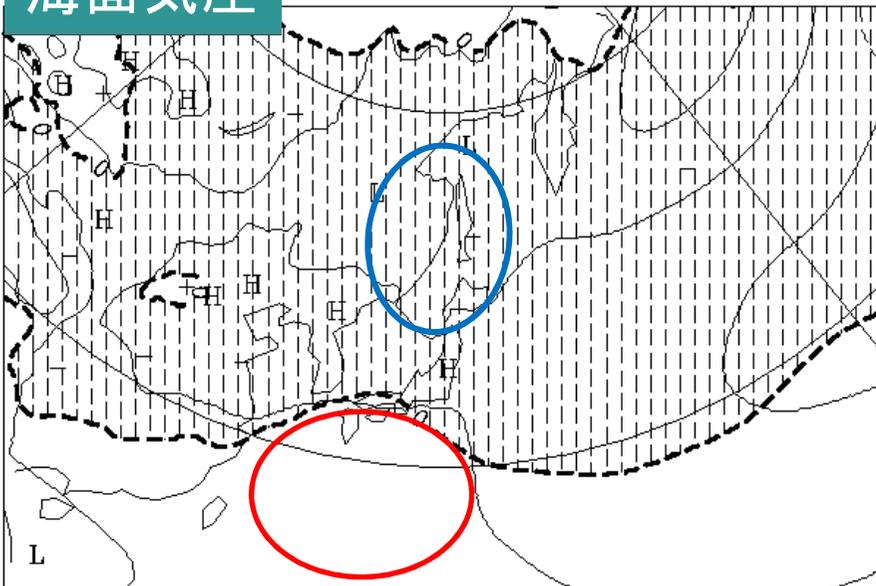
日本付近は東西帯状に正偏差で、東日本以南は、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。一方、日本の北は帯状に負偏差域となっており、亜熱帯ジェット気流が北偏して強いことを示している。このため、日本付近は暖かい空気に覆われやすいとともに、北日本日本海側を中心に、低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。

850hPa気温



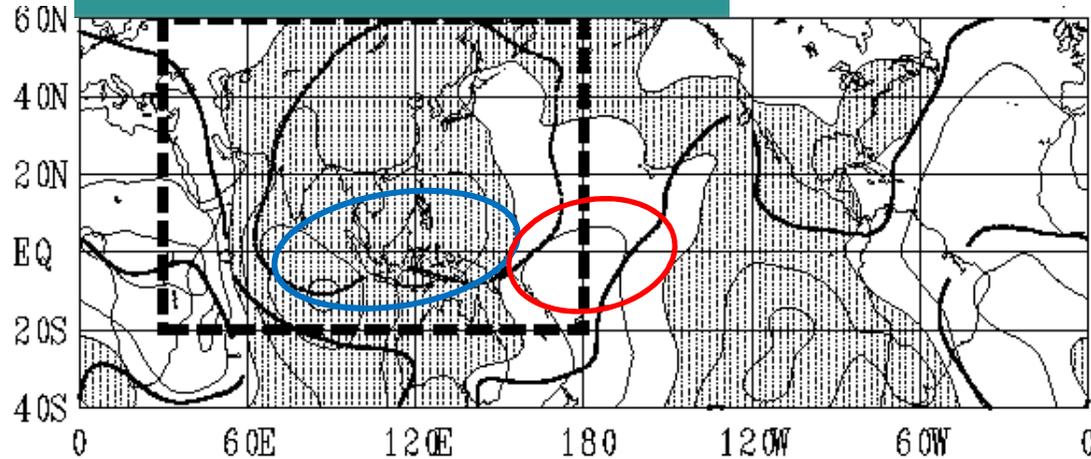
日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧



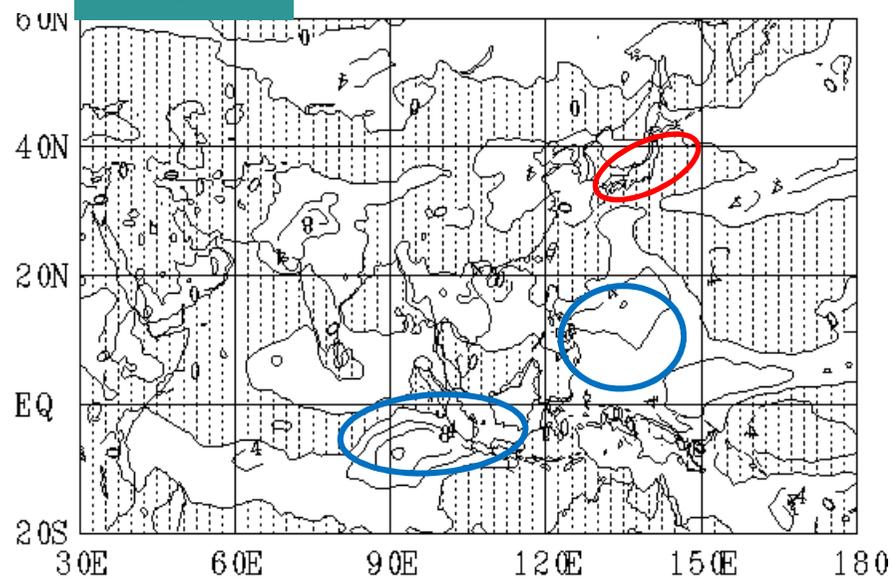
平年に見られる本州の南の気圧の谷が浅く、東・西日本を中心に高気圧に覆われやすい。一方、北日本付近は気圧の谷となり、北日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある見込み。

200hPa速度ポテンシャル



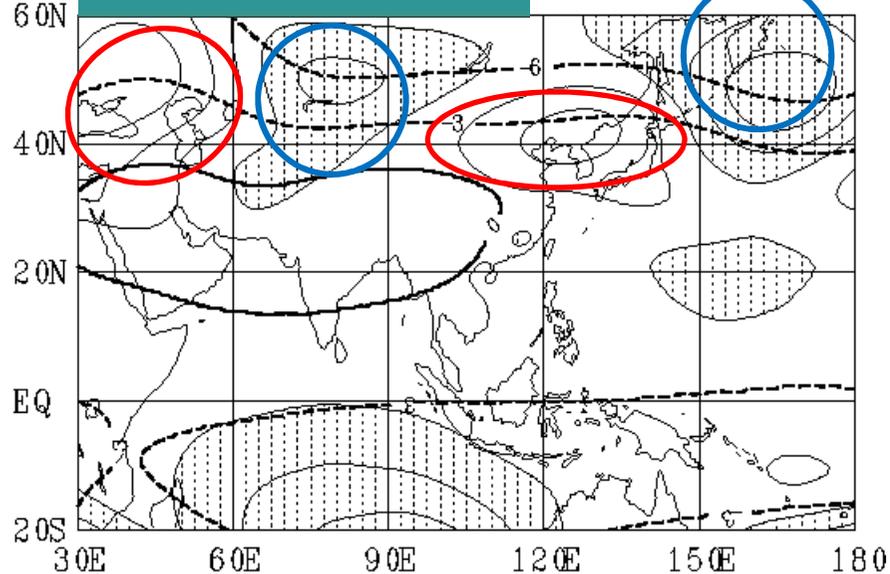
インドネシアからフィリピンの東にかけて上層発散偏差。
日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



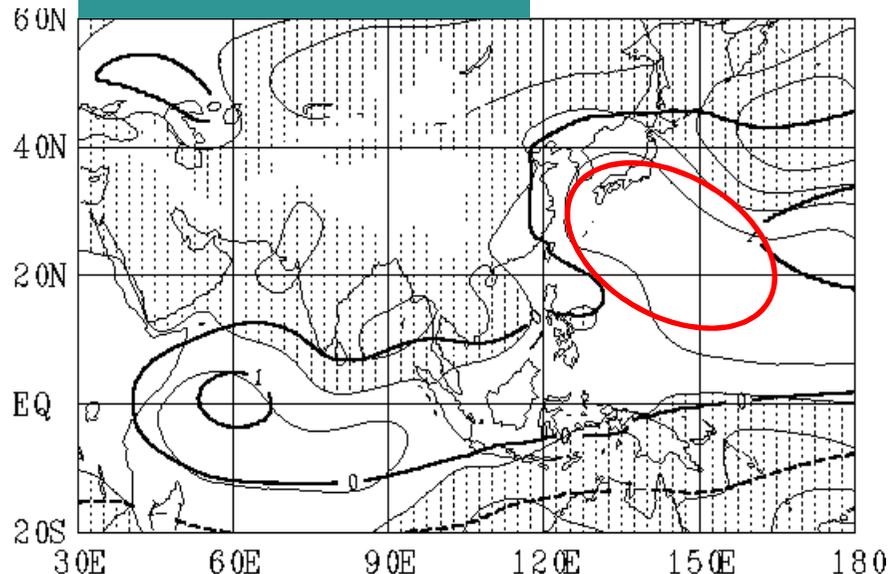
インドネシア付近とフィリピンの東で多雨偏差。日本付近で少雨偏差

200hPa流線関数



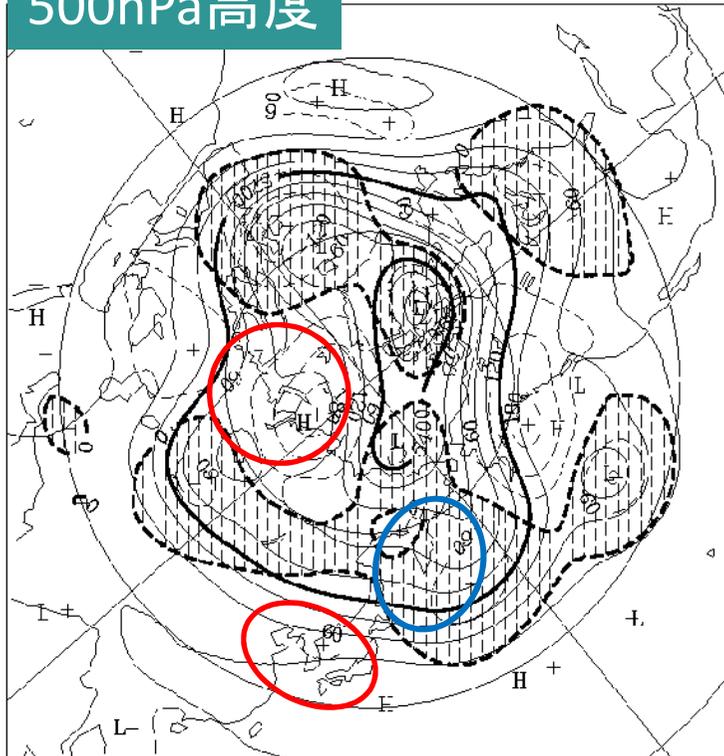
亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播の影響により、朝鮮半島付近を中心に高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



日本の南から日本海西部にかけて高気圧性循環偏差で、西日本を中心に順圧的な高気圧性循環偏差。

500hPa高度

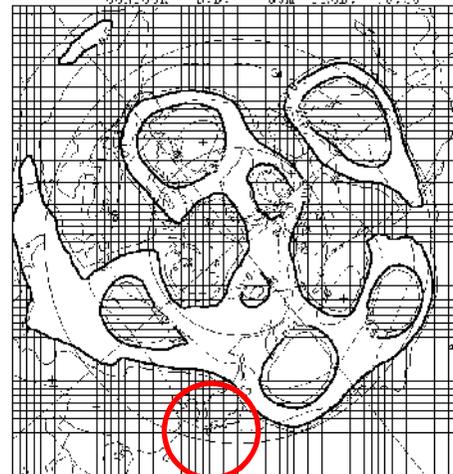
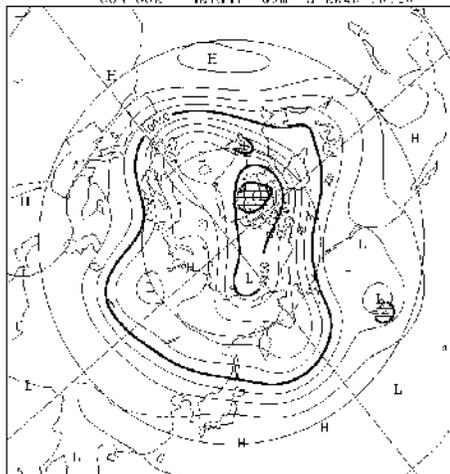


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

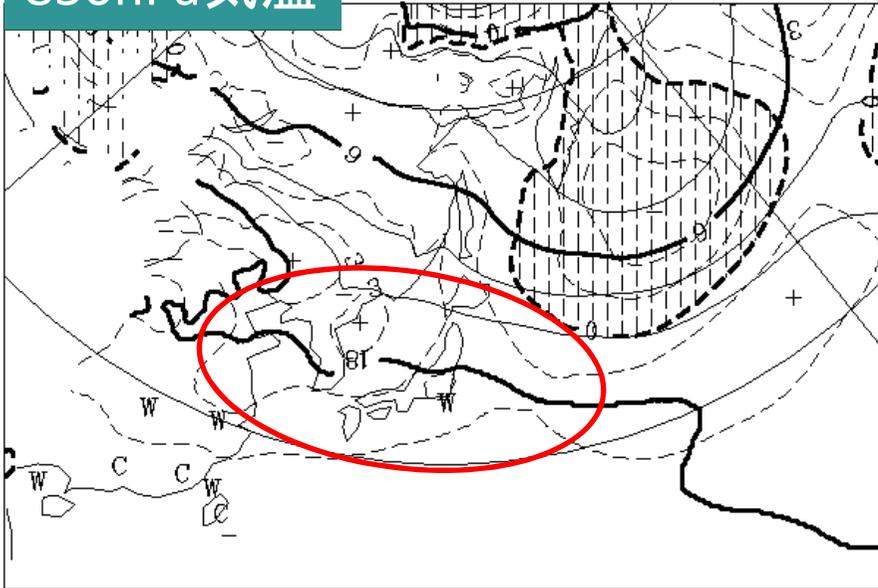
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



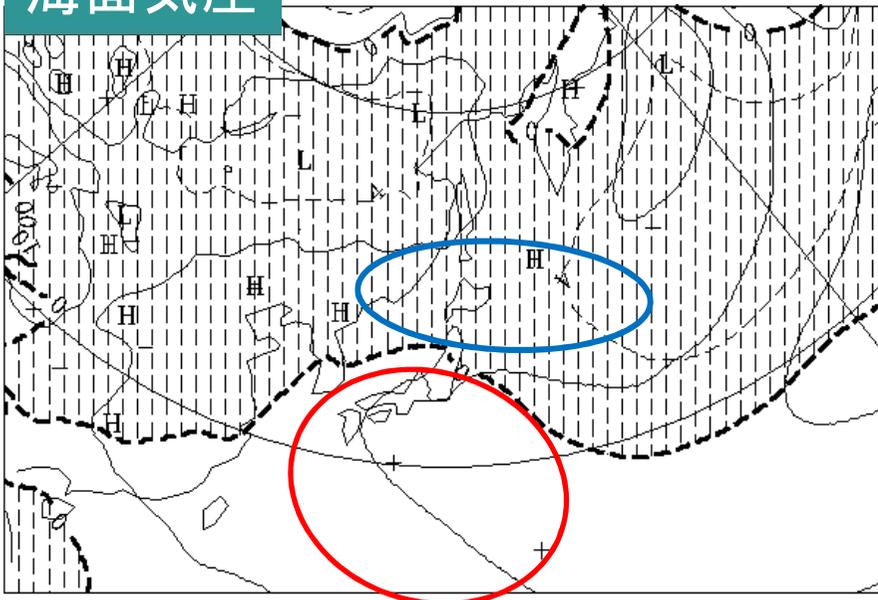
亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播の一環として、朝鮮半島付近に正偏差、カムチャツカ半島付近に負偏差。日本付近は正偏差に覆われる。日本付近は北海道を除き、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。ノバヤゼムリア付近にブロッキング高気圧があり、2週目の極東域の循環場に影響を与える。

850hPa気温



日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧



日本の南で太平洋高気圧が強く、東日本を中心に覆う。沖縄・奄美を中心に、高気圧の縁を回って湿った空気が流れ込む。一方、北日本付近は負偏差で、北日本を中心に低気圧や前線の影響を受ける。

想定される天候

- 北・東日本では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

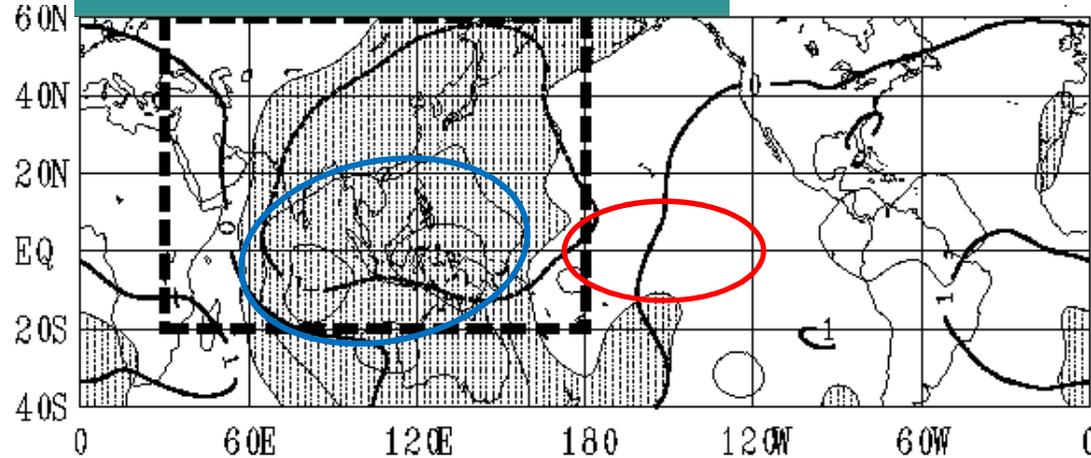
<気温>

・全国的に太平洋高気圧や移動性高気圧に覆われやすく、暖かい空気に覆われやすいため、かなりの高温の見込み。

<天候>

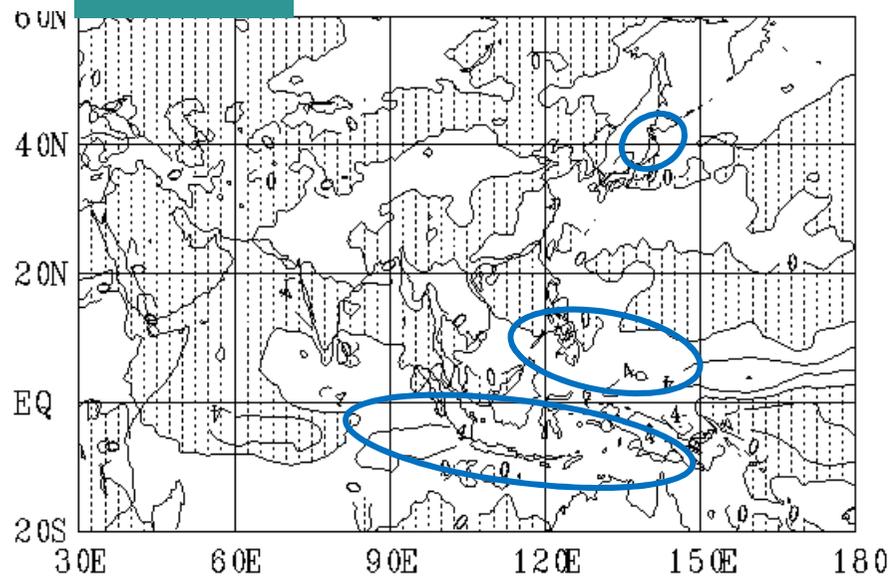
・高気圧に覆われやすいが、低気圧や前線の影響も受けるため、北日本と東日本日本海側では並雨多照傾向。高気圧に覆われやすい東日本太平洋側では少雨傾向多照、西日本太平洋側では少雨傾向並照。西日本日本海側と沖縄・奄美では並雨並照。

200hPa速度ポテンシャル



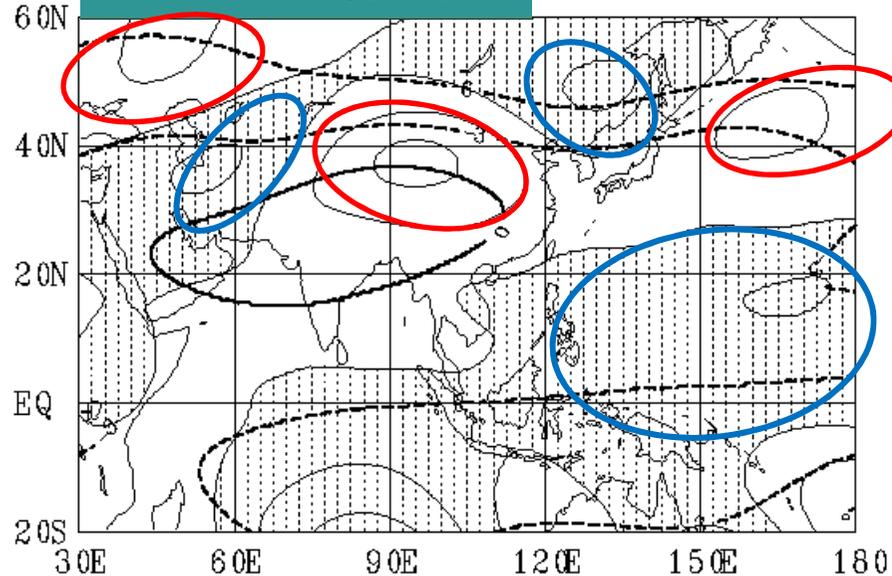
インド洋東部からフィリピン付近で上層発散偏差。太平洋赤道域の中部で上層収束偏差。

降水量



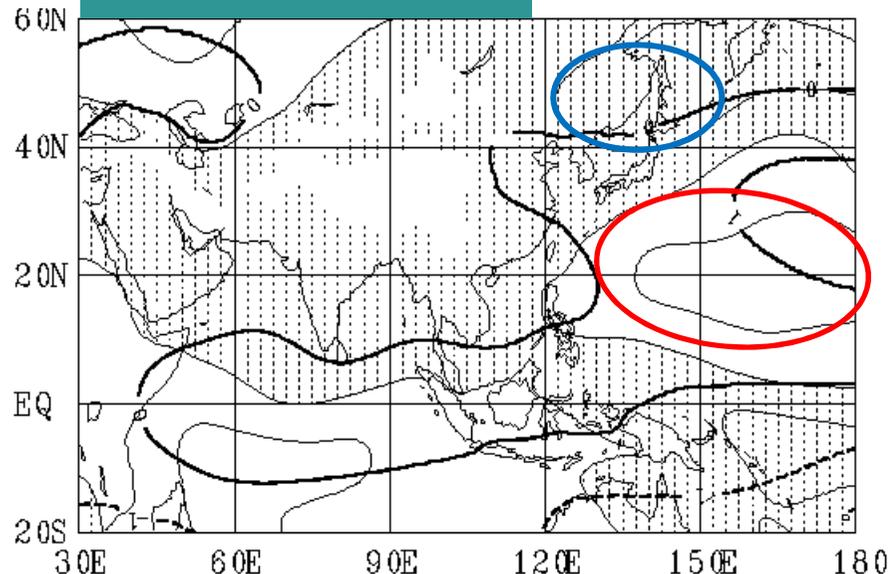
インド洋熱帯域の南東部からインドネシア付近と、フィリピン付近からフィリピンの東で多雨偏差。北日本で多雨偏差。

200hPa流線関数



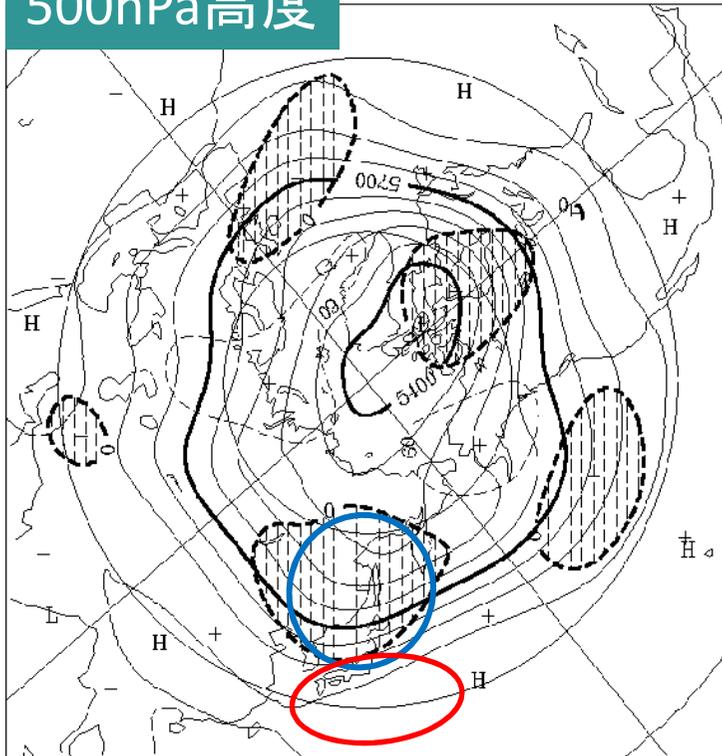
亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播の影響で、中国東北区付近にトラフ、日本のはるか東にリッジがあり、北日本付近は西谷。熱帯対流活動に対応して、フィリピンから日付変更線付近にかけて低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



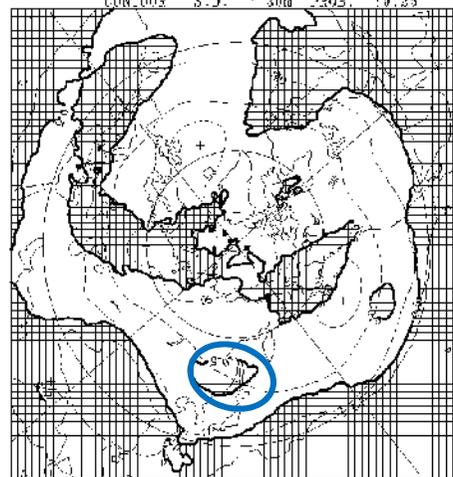
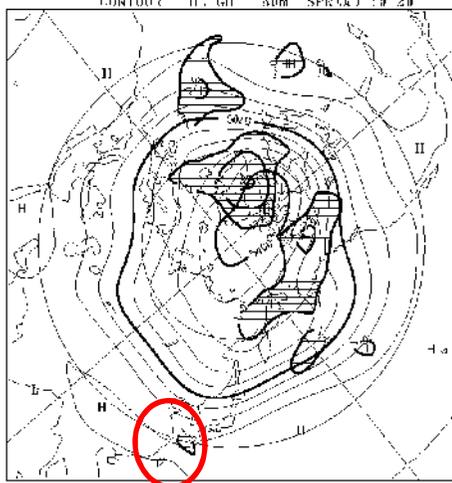
フィリピンから日付変更線付近にかけて高気圧性循環偏差で、鉛直に傾圧構造。上層の変化に対応して、日本付近の高気圧性循環偏差は弱まり、北日本中心に低気圧性循環偏差となる。

500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT

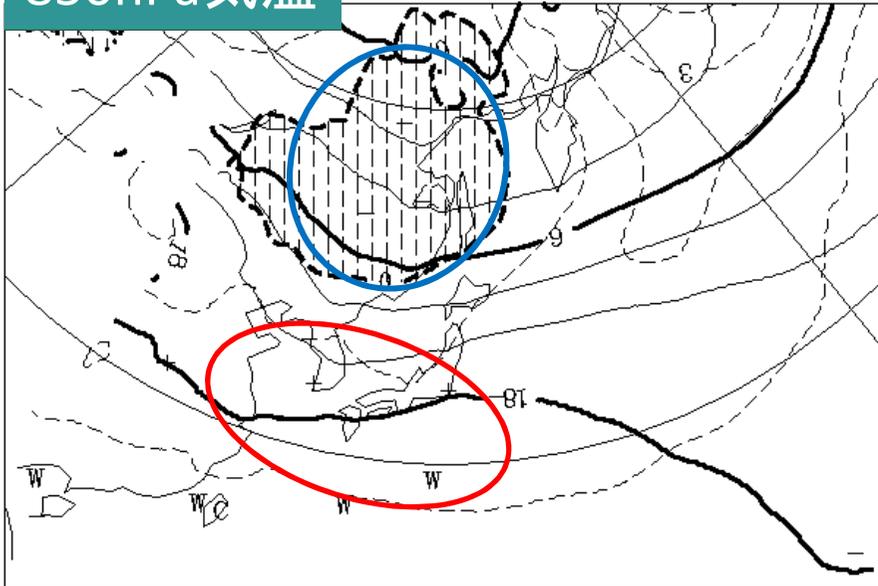
PROB. OF ILAKOMIA.Y AND S.D.



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播の影響に加え、ノバヤゼムリア付近のブロッキングの崩壊に伴う寒帯前線ジェット気流沿いのロスビー波東伝播により、中国東北区付近で負偏差で、トラフが日本海西部に伸びる。

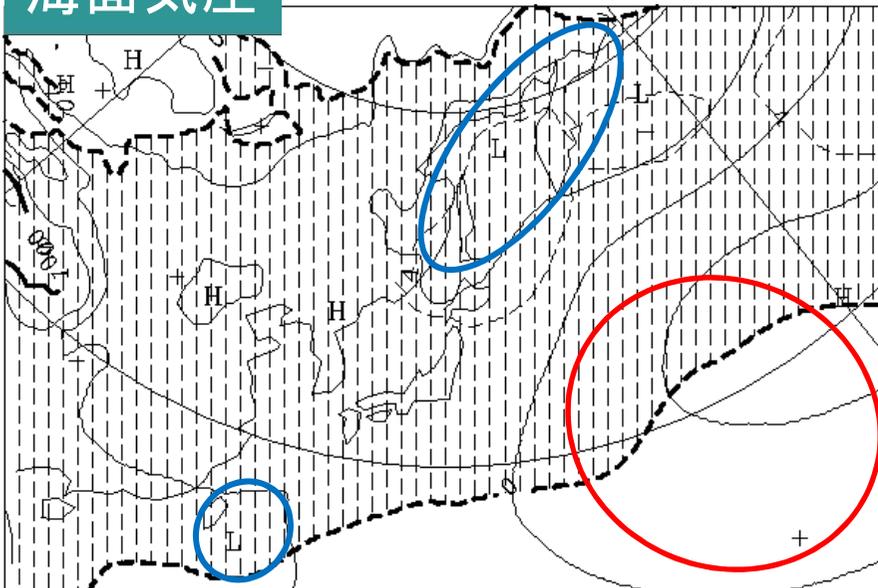
日本付近は、東日本以南は正偏差に覆われる一方、北日本は負偏差で、サハリン付近には負の高偏差確率50%以上の領域もある。東シナ海にスプレッドの大きな領域があり、熱帯じょう乱の予測の不確実性を示す。

850hPa気温



日本付近は正偏差域に覆われる。トラフに対応して、中国東北区からサハリン付近にかけては負偏差域が広がり、北日本では弱い正偏差となるが、周辺海域の海面水温が高いことから、地上気温は下がりにくい。

海面気圧



1週目に比べ、太平洋高気圧の日本付近への張り出しは弱まるものの気圧の傾きは小さく、北・東日本太平洋側を中心に高気圧に覆われやすい。一方、サハリン付近には気圧の谷があり、日本海側の地方では、北日本を中心に、低気圧や前線の影響を受ける。台湾の南には低気圧があって、日本付近は熱帯じょう乱の影響を受ける可能性がある。

想定される天候

- ・ 北・東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 北・東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

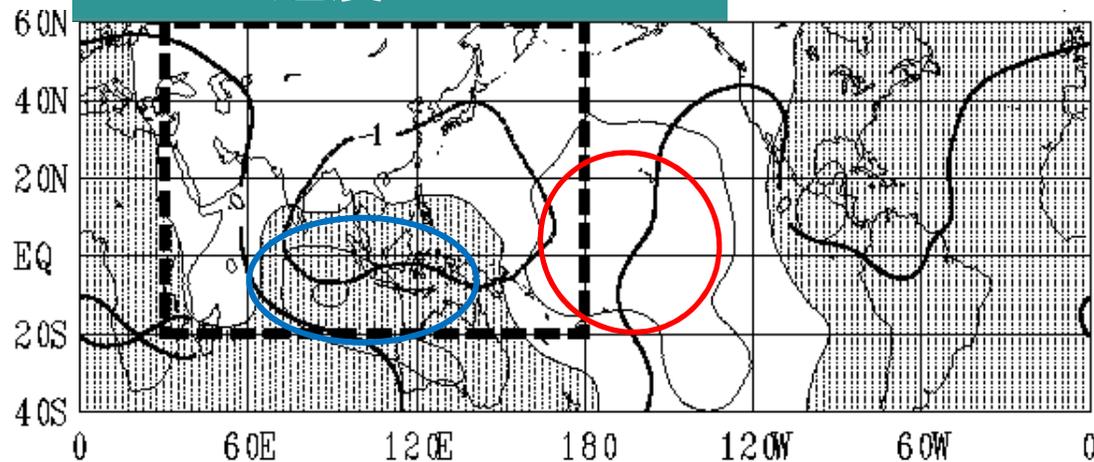
<気温>

- ・全国的に暖かい空気に覆われやすいため、かなりの高温の見込み。

<天候>

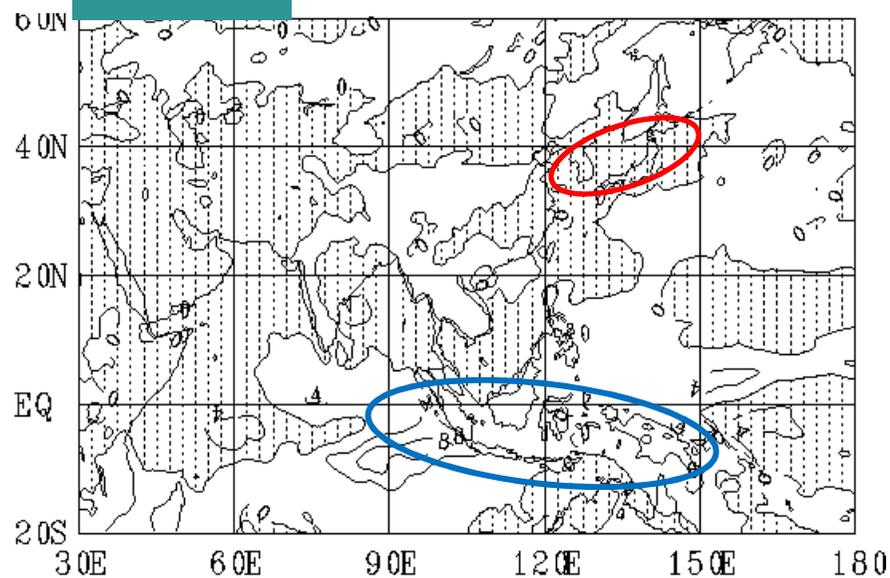
- ・高気圧に覆われやすいため、北・東日本太平洋側では並雨多照傾向。低気圧や前線の影響を受けるため、北日本日本海側では多雨傾向並照。東日本日本海側、西日本と沖縄・奄美では並雨並照。

200hPa速度ポテンシャル



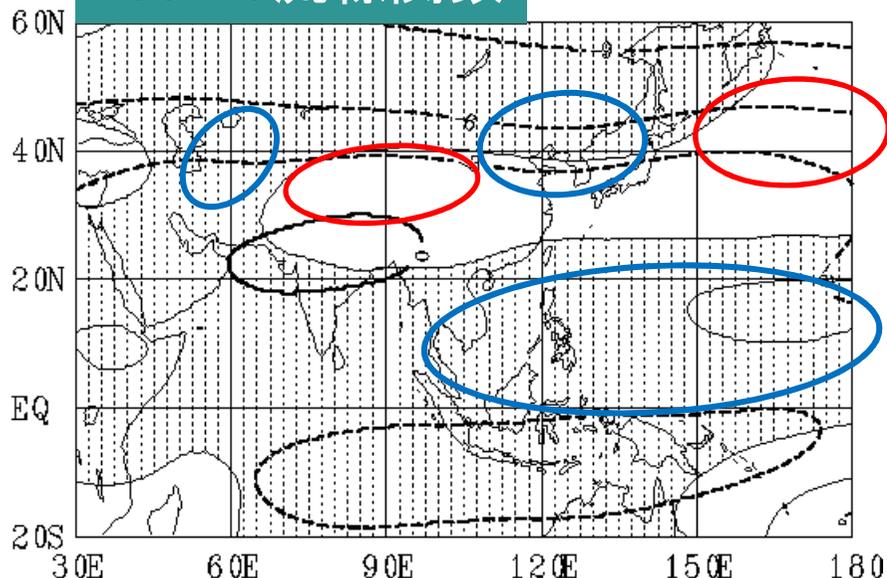
インド洋熱帯域の南東部から
インドネシア付近にかけて上
層発散偏差、太平洋赤道域
の中部で上層収束偏差。

降水量



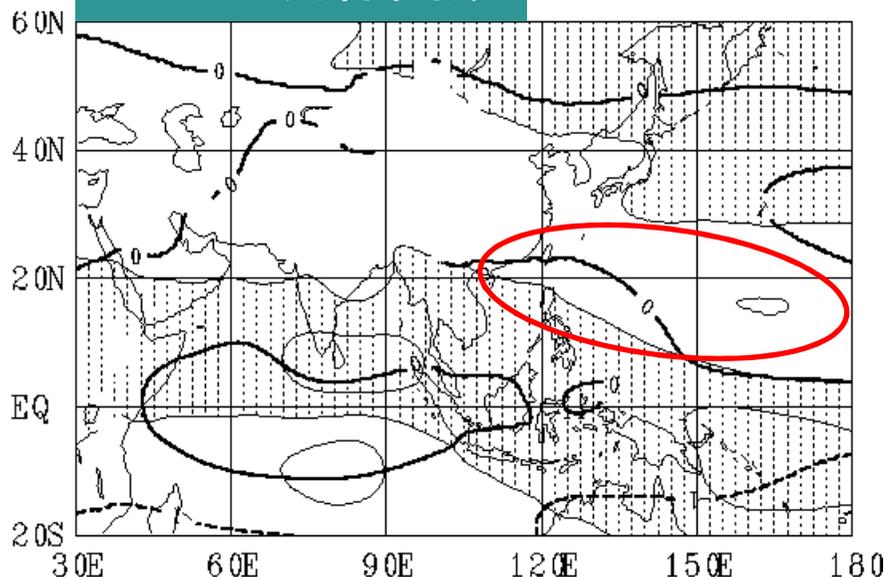
インド洋熱帯域の南東部からイ
ンドネシア付近で多雨偏差。
日本付近は少雨偏差。

200hPa流線関数



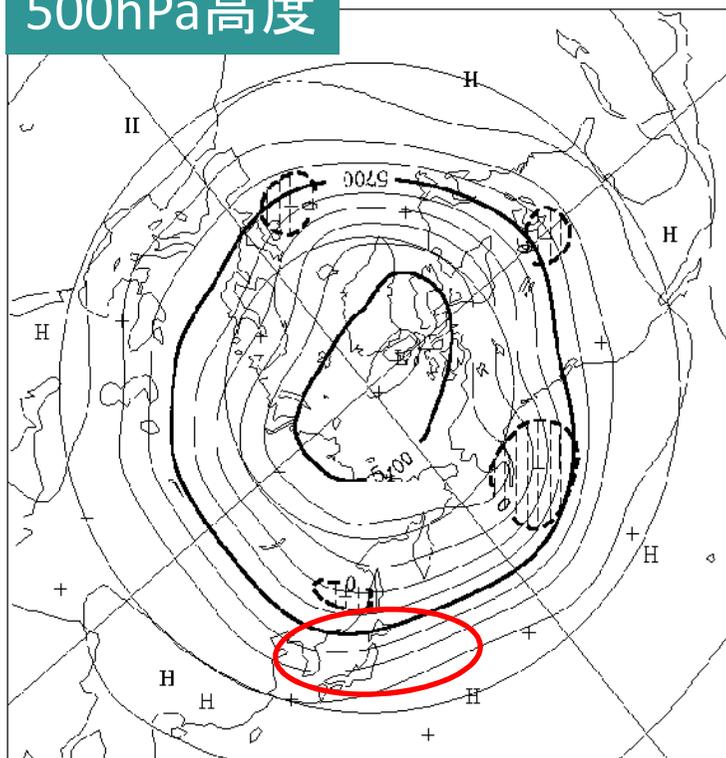
亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響により、中国東北区から朝鮮半島付近で低気圧性循環偏差、日本のはるか東で高気圧性循環偏差で、北日本は西谷。熱帯対流活動に対応して、南シナ海から日付変更線付近にかけて低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



南シナ海から日付変更線付近にかけて高気圧性循環偏差で、傾圧構造。沖縄・奄美は高気圧に覆われやすい。

500hPa高度



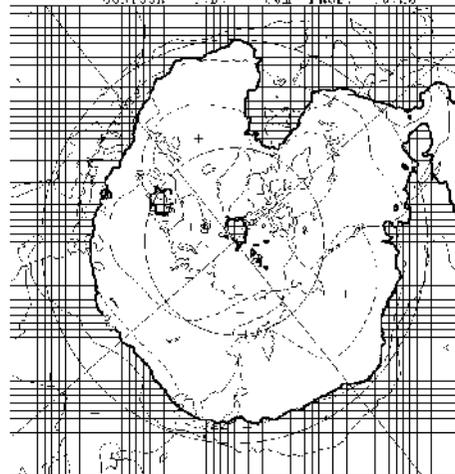
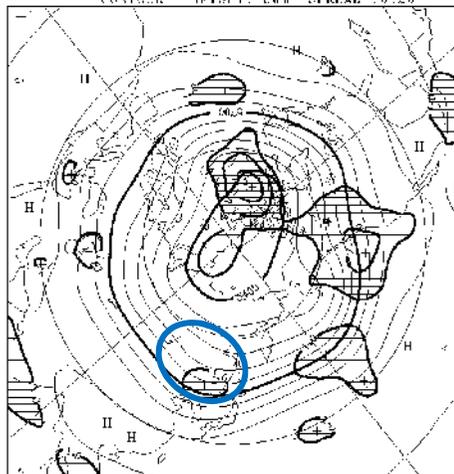
日本付近は正偏差に覆われる。
日本の北でスプレッドが大きく、
2週目のトラフの解消の予測の
不確実性を示唆。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

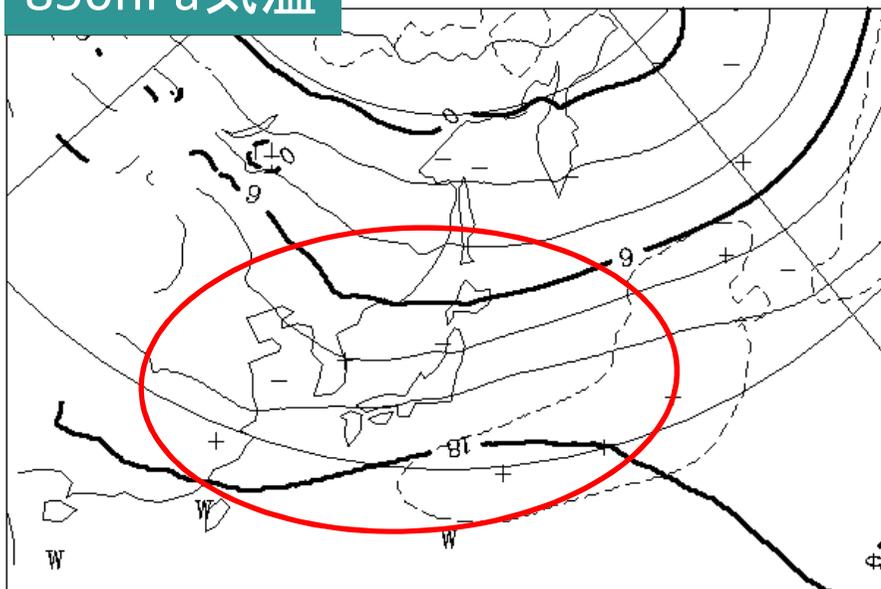
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

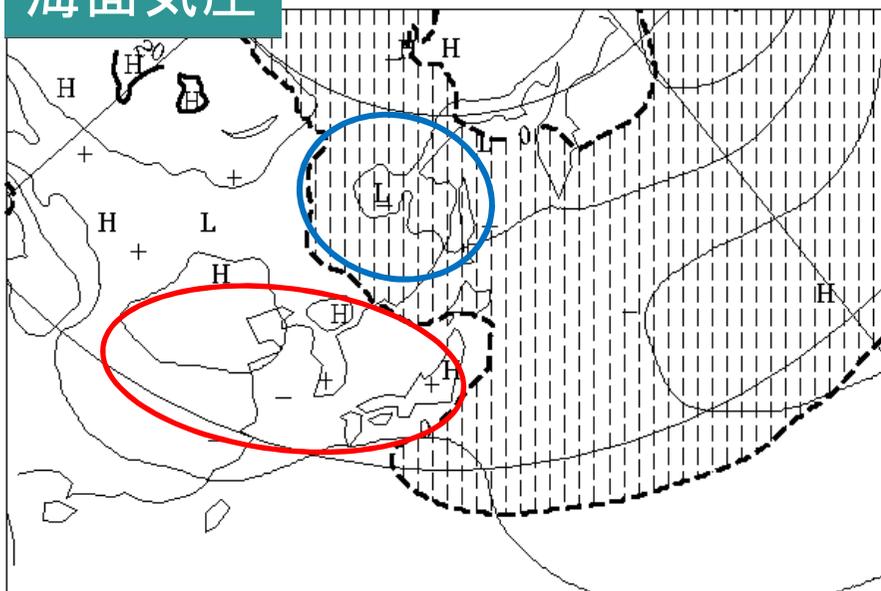


850hPa気温



日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧



本州付近への太平洋高気圧の張り出しが弱まる一方、華中・華南から本州付近にかけて正偏差で、西日本を中心に移動性高気圧に覆われやすい。また、沖縄・奄美は太平洋高気圧に覆われやすい時期がある。一方、サハリン付近には気圧の谷があって、北日本は低気圧や前線の影響を受ける。

想定される天候

- ・ 北日本と東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本太平洋側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

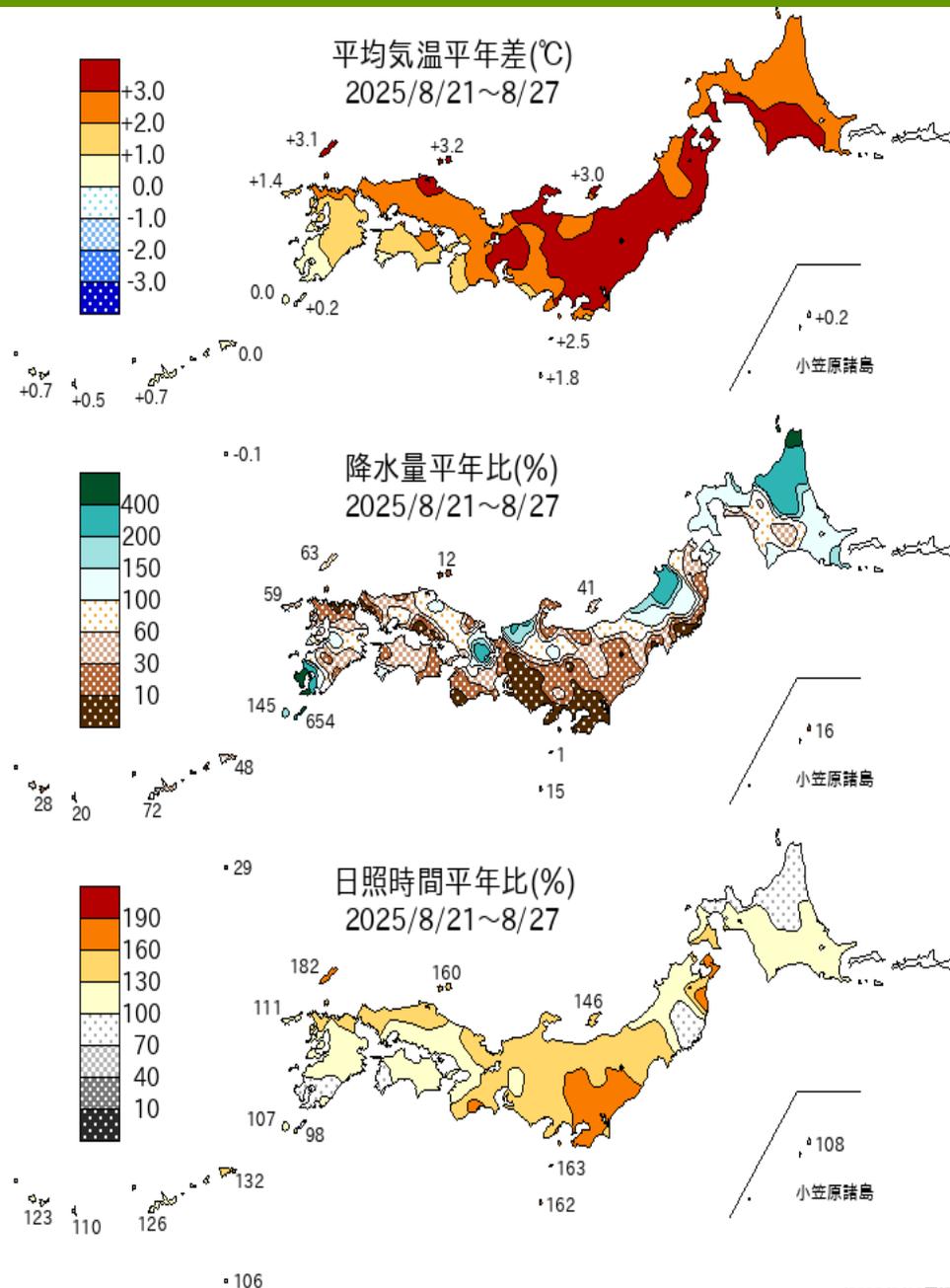
<気温>

- ・全国的に暖かい空気に覆われやすいため、高温。

<天候>

- ・東日本日本海側と西日本では、高気圧に覆われやすいため並雨だが多照傾向。
- ・北日本、東日本太平洋側、沖縄・奄美は並雨並照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(8月21日~8月27日)は、太平洋高気圧に覆われやすかったため、全国的に晴れた日が多くなり、日照時間は平年を上回った所が多く、降水量は平年を下回った所が多くなりました。一方、北日本付近を低気圧や前線が通過したため、北日本日本海側の降水量は平年を上回り、大雨となった所もありました。また、台風第12号などの影響を受けた西日本太平洋側では大雨となった所がありました。

気温は、日本付近に太平洋高気圧が張り出し暖かい空気に覆われ、また、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだため、北・東日本を中心に平年を大きく上回りました。